



株式会社 高齢社

2026年シニアの働き方は 「週3日 ワークシェア 定年なし」 65歳を過ぎても 仕事があるのは 感謝しかない!

人生100年時代の歩き方

定年後も働く意欲のあるシニア層には朗報だ。今年4月から働きながら年金を受け取る際の「在職老齢年金の支給停止調整額」が現行の月額51万円から62万円に大幅に引き上げられる。豊富な経験や知識をより企業や社会貢献に生かせるわけだ。そんな元気なシニア層をサポートするのが「高齢社」だ。



高齢社提供

シニア労働市場に風穴をあけている同社。単発仕事のスポット就業がゼロで、「働き続けられる」という安心感をシニア派遣社員にもたらしている。

「登録は原則65歳以上で、条件は定年退職をした『気力、体力、知力』のある前向きな方です。登録者数は昨年12月現在で約1250人。そのうち就労者は410人で、平均年齢71歳です」と村関三夫社長(写真上)。数字だけでもまさに高齢者に特化した会社なのだ。

「勤務形態は働く人の都合を優先しますが、週3日程

◇シニア労働者のなんでもデ〜タ◇	
就業者数	男性538万人、女性391万人(合計930万人)
雇用形態(役員除く)	正規職員130万人、パート・アルバイト298万人、契約社員58万人など
70歳まで働ける会社	全企業(従業員21人以上)の34.8% ※65歳までは99.9%
海外のシニア就業率	韓国38.2%、米国18.9%、英国11.6%、ドイツ9.3% ※日本25.7%
高齢者世帯の平均所得	年金も入れて年間318.3万円 最多ゾーンは「200万〜250万円」
希望の労働時間	5.4時間/日、3.9日/週 ※希望の月収16.8万円
産業別の主な働き場所	農業・林業93万人、製造業88万人、建設業80万人、医療・福祉115万人
現在の仕事を決めた理由	スキルが生かせる41.5%、自宅から通いやすい33.7%、やりがい24.8%
働いていない理由	健康上33.7%、年齢制限11.3%、職種が合わない6.3%

※出典＝「労働力調査」(24年、25年版)、「高齢者雇用状況等報告」(25年版)、「高齢社会白書」(25年版)、連合「高齢者雇用に関する調査2020」など

「起業はしたけれど…」現役3人の本音

24年の65歳以上の就業人数は930万人で過去最多。「65〜69歳」は半数以上の人が、「70〜74歳」でも3人に1人強が働いている。「75歳以上」でも8人に1人だ。

働く理由は「収入が欲しい」が過半数を占めるものの、仲間や生きがい、社会的な孤立を防ぐうえでも大きな役割を担っている。ただし、すべての人ががうまくいくとは限らない。

そこで「現役シニア」の3人にアドバイスしてもらった。

【事例①】大手メーカーで開発者として勤務した山内さん(仮名・74)は定年後、起業をした。「うちは65歳で定年して、も子会社に出向するなど70歳までサラリーマンとして働けます。ところが、70歳を越えてしまふと働く場所が見つからないう。私は自分が開発した商品をよりブラッシュアップしたいと起業し、創業コンテストのシニア部門で賞をもらいました」

受賞は大いに励みになったが、経営はもう一人のもの、仲間や生きがい、社会的な孤立を防ぐうえでも大きな役割を担っている。ただし、すべての人ががうまくいくとは限らない。

そこで「現役シニア」の3人にアドバイスしてもらった。

【事例②】年齢制限が壁となつて、スキルのある仕事を辞めざるを得ない人もある。通販のコールセンターで家計を支えていた舞台女優の珠美さん(仮名・65)もその一人だ。

「64歳になった時に、セリターから65歳で定年だ

職場のSさん(高齢社提供)



器営業やサービス業など。一般業務も増え、レンタルカーの受け付けの仕事が多い。またマンションの管理人や清掃の仕事、ゴルフコースの管理補助など、早朝から就業できるシニアが重宝されています」(村関社長)

もちろん、東京ガスのOBでなくともウエルカム。派遣社員をサポートするのにも、シニアのコーディネーターたちだ。働きぶりを確認する世話係だが、もし派遣先の都合で契約更新がない場合は次の派遣先を探してくれる。

「派遣先によっては就業から1カ月は健康状態を確認したいところもありますが、ほとんどが1年契約。中には10年ほど働いているシニアもいます。時給は制期末手当も。収入は月10万円から20万円。年金と併用することでお金に余裕が生じるため、念願をかなえているシニアもいます」(村関社長)

では、具体的な例を紹介してみよう。ガス関連会社で午前8時30分から午後5時まで週3回、制服の洗濯などの仕事をしているSさん(72歳写真)は、24年世界マスターズ卓球のローマ大会に出場。月給11万円をコーチ代に充てている。Kうれしい。

「派遣先によっては就業から1カ月は健康状態を確認したいところもありますが、ほとんどが1年契約。中には10年ほど働いているシニアもいます。時給は制期末手当も。収入は月10万円から20万円。年金と併用することでお金に余裕が生じるため、念願をかなえているシニアもいます」(村関社長)

では、具体的な例を紹介してみよう。ガス関連会社で午前8時30分から午後5時まで週3回、制服の洗濯などの仕事をしているSさん(72歳写真)は、24年世界マスターズ卓球のローマ大会に出場。月給11万円をコーチ代に充てている。Kうれしい。

「起業はしたけれど…」現役3人の本音

24年の65歳以上の就業人数は930万人で過去最多。「65〜69歳」は半数以上の人が、「70〜74歳」でも3人に1人強が働いている。「75歳以上」でも8人に1人だ。

働く理由は「収入が欲しい」が過半数を占めるものの、仲間や生きがい、社会的な孤立を防ぐうえでも大きな役割を担っている。ただし、すべての人ががうまくいくとは限らない。

そこで「現役シニア」の3人にアドバイスしてもらった。

【事例①】大手メーカーで開発者として勤務した山内さん(仮名・74)は定年後、起業をした。「うちは65歳で定年して、も子会社に出向するなど70歳までサラリーマンとして働けます。ところが、70歳を越えてしまふと働く場所が見つからないう。私は自分が開発した商品をよりブラッシュアップしたいと起業し、創業コンテストのシニア部門で賞をもらいました」

受賞は大いに励みになったが、経営はもう一人のもの、仲間や生きがい、社会的な孤立を防ぐうえでも大きな役割を担っている。ただし、すべての人ががうまくいくとは限らない。

そこで「現役シニア」の3人にアドバイスしてもらった。

【事例②】年齢制限が壁となつて、スキルのある仕事を辞めざるを得ない人もある。通販のコールセンターで家計を支えていた舞台女優の珠美さん(仮名・65)もその一人だ。

「64歳になった時に、セリターから65歳で定年だ

65歳以上の求人数が劇的に増えているとはいえず、何事もその前の準備が必要のようだ。